

協会だより

〔東京支部〕

1 新入寮生の土佐寮紹介

『より良い新生活のために』

東京大学1年 繁枘 祐

東京という喧騒と夢にあふれた大都会で見えない落とし穴でいっぱいの新生活を無事に乗り切るためには、土佐寮は最適な生活環境となることでしょう。ここでは、実際に浪人期間に埼玉県で異なる寮生活を体験した私なりの観点から、土佐寮の他にはない魅力を紹介していきます。

まず何とんでも寮費が安いことです。朝夕の食事付きで毎月約6万は破格の一言に尽きます。自炊はめんどくさい、という人にとっても、栄養のバランスの取れた食事を毎日時間通りに喫食するうちに、自然と生活のリズムも整ってくるはずです。立地もよく、吉祥寺の繁華街に近いことはもちろん、有名な井の頭公園と隣接していることがうれしく、高知を思い起こさせてくれるような豊かな自然と静けさに囲まれて暮らすことができます。

次に紹介したいメリットとしては、私が入寮以前に思っていたよりも自由度が高いということです。土佐寮では大まかには年に2回の総会と毎月約一回の風呂掃除さえこなせば、各々が各々のペースで生活でき、人付き合いが悪いからと言って疎外されることなどはないに等しいといえます。それどころか、自治の伝統に基づき不便な点や改善点を総会で報告することで土佐寮をよりよい居住空間にしていくことさえできます。マナーの悪い寮生はいますが、たとえばアパート暮らしではさらに悪質な隣人に悩まされる可能性や、独り暮らしなら結局、毎日風呂掃除をする必要があるわけで、これらの点は大したデメリットではなく、むしろ利点であるとさえいえます。

最後に、私が最も重要だと思うメリットが「真に心の通った濃密な人間関係を形成できる」ことです。これは先ほどの点と矛盾するようでもありますが、同じ屋根の下で暮らすうちにはきっと気の合う友人が見つかるはずです。食事の出ない日曜に料理が得意な者に作ってもらったり、服飾を学んでいる者に服をえらんでもらったりするなど、互いの得意分野を持ち寄ることで共同体としての絆が確立してきたように思います。他者との交流は自分の殻を破ることもつながります。これは僕が前いた寮や独り暮らしではありえないことです。病気など、いざというとき頼れる仲間がすぐそこにいることほど心強いことはありません。

このように、土佐寮は大学生生活というある種のモラトリアムを充実したものとするために最適な好条件がそろっています。入ろうか迷っているという人ほど、一度飛び込んでみてほしいと思います。この拙稿が入寮決定の一助となることがあれば幸いです。

『東京で暮らしてみて』

青山学院大学1年 畠中 建州

高知で生まれ育った僕は、東京という大都市に対する憧れが常にありました。インターネットやテレビで見る華やかな街並みや多様な文化、そして活気にあふれる人々に心を躍らせていました。大学進学のため高知を離れ、東京での生活を始めて早くも半年が経ちます。ここでは自分の東京での生活について書こうと思います。

自分は青山学院大学に通っていて、青学と聞くとチャラチャラしているイメージがあると思いますが実は真面目な方がたくさんいます。授業後にも教授に質問しに行く生徒が多く、また生徒同士で授業内容について教えあいが行われるなど、学生の本分を全うしている印象を受けます。青学ではサークル活動がとても盛んです。僕は青学ラーメン愛好会（ラー愛）というサークルに所属しており、そこにはラーメンをこよなく愛する者たちが集います。サークルは共通の趣味を持った人たちが集まるので友達を作るのにとってつけのコミュニティです。

青学に進学するにあたって僕は迷わず土佐寮で暮らすことを選びました。なぜなら東京での単身生活を考えた場合、不安に感じる事が多くあったからです。しかし土佐寮に入れば、同じ高知県人同士気楽に話し合えるし、寮の上級生になんでも相談もできると考えたため土佐寮で暮らすことにしました。土佐寮では一人暮らしでは味わうことのできない、「みんながいるからこそその和気あいあいとした雰囲気」を楽しみながら過ごしています。一緒に勉強したり、ご飯を食べたり、相談に乗ってもらったり、友達と四六時中、一緒にいられる楽しさは自宅や一人暮らしでは味わえません。また土佐寮にはたくさんの学生が住んでいて寮生活を通していろいろな大学の学生と知り合えることができます。その人たちと仲良くなることで、自分の考え方の幅が広がり、今までにない自分を見つけ出すことができます。僕も実際に土佐寮で暮らしていろいろな人と交流していくうちに以前の自分より遥かに外交的になったと感じます。

これからも東京で色々な方と出会い、交友を持ち、自分自身の価値観の視野を広めたいです。

2 在寮生の土佐寮紹介

『大学生活を振り返って』

東京農工大学 大学院2年 津野 智之

大学での生活は多くの経験に満ち、その経験の一つ一つが私を成長させるものだったと感じています。そんな学生生活も、大学院の卒業まで半年となり、同時に寮で過ごす日々も残り僅かになりました。そこで、この場をお借りして大学生活の思い出を振り返らせていただきたいと思います。

私は学生生活を土佐寮で過ごしましたが、寮に入って良かったと、特に感じるものが二つあります。その一つが、食事の提供があるという点です。寮の食事は生活の基盤であり、私の数々の活動を支えてくれました。その活動の一つがサークルでのロボット製作です。朝から講義に出席し、それが終われば毎日夜遅くまで、講義の無い土日にも活動に打ち込んでいました。そんな生活の中でも、毎日朝食を取って日中のパフォーマンスを維持し、しっかりした夕食を取って明日の英気を養うことが出来たのは、寮で提供される食事のおかげだったと思います。

寮に入って良かったことのもう一方が、寮生の友人を得られたことです。学部2年の時期に経験したコロナ禍では、大学での人間関係が希薄になり、サークル活動も思うように取り組むことができず、暗い気持ちになっていました。しかし、寮で友人と語らうことで、鬱屈した気持ちを吐き出し、前を向くことができました。また、就活の時期には、自分の将来や選考の結果などで迷う事が多かったのですが、大学や寮で得た友人達に相談することで、自分の考えを整理し、乗り越えることができました。

振り返ると、私の大学生活は人と人との繋がり大切さを強く感じるものでした。サークルでは、高度な機械を作り上げることの困難を知り、それを通じて、大きな目標は一人では成し遂げられないことを知りました。また、就活では先輩や友人といった、多くの仲間助けられ、その心強さを知りました。こうした経験や大学生活で得た友人は、私の人生の大きな財産であると感じています。

最後に、私を支えてくれる家族、友人、寮や大学の皆様へ感謝すると共に、私たちの将来が明るいものになることを願っています。

3 卒寮生の思い出

『人との付き合い』

令和5年卒 東富 隆晋

土佐寮を卒寮し、私は銀行員としての道を選んだ。最初の配属で大阪支店と言いつ渡されてからはや1年半。現在は、法人営業担当として、製造や卸売、運送業を中心とした中小企業の経営者を訪問し、融資業務などを行っている。毎日、経営者や経理部長などと対話するなかで感じたことは「人との付き合い」の重要性だ。

私が土佐寮にいたころは、コロナ禍の真っ只中で、人とのかわりが断絶されていた。大学の授業はほとんどがオンライン授業となり、土佐寮の総会までもがオンライン開催となっていた。他の寮生の部屋を訪れることも禁じられ、食事もお弁当を自室でとる形式になっていた。私自身は一人であるのが苦ではない性格だったため、概ね普段通りの生活を送っていたが、同じく土佐寮に住んでいた兄は、人と話していないと気が済まないような性格だったため、かなり精神的にも参っていたようだ。

恥ずかしながら、人との付き合いの重要性を大人になってから感じた。銀行の融資の中で、いかに「付き合いでの借入」が多いことか。実は、本当に資金に困っていて融資の相談をしてくる企業よりも、資金には困っていないが、付き合いとして借入をしている企業の方が多い。「(リーマンショックや震災などの)不況時に助けてもらったから」、「今は特段困っていないが、今後何かあった時のために」といった理由で。

「付き合い」の語源を調べてみると、室町時代に複数人で歌をリレー形式でつなぐ連歌の「付合(つけあい)」にあるようだ。一人だけが自己中心的に歌をうたっても、次の人は歌を繋ぎづらいただろう。同じように一方的に、資金に困っているからお金を貸してほしいと言っても通用しないのだ。困っていないときから銀行と付き合い、本当に困ったときには相談する。膨大な融資ノルマを課される銀行員にとって、本当は必要ないが借入をしてくれる企業は困ったときに助けたくなるもので、まさにギブアンドテイクなのだ。

土佐寮生にぜひ心にとめておいてほしいことがある。今後、社会人となると、人に助けられる機会が多くなると思う。ぜひ、助けられることが当たり前だと思わないでほしい。感謝を伝えることはもちろん、必ず恩返しをし、今度は自分から人を助けられるよう行動してほしい。自戒として私も心に刻みたいと思う。